

頭から読む英文

A Direct Approach of Learning to Read English Like Native Speakers

坂井孝彦

(順送り方式、センス・グループ、直読法、直読直解法、サイト・トランスレーション)

1. 目的

インターネットの時代を迎えて英文を短時間に速く読み取ってゆくことが重要な課題となってきた。この課題に対応して「文頭からの順送り方式リ・ディング」を提唱したい。

2. 方法

文の頭の方から文が流れるがままに自然に左から右へと視線を移動させることによって、英文をとらえることができれば、読むスピードがあがるのみならず、著者の内面的な意識の流れをそのままに理解してゆける。そうすれば、英文における思考の流れや発想の方法までもとらえてゆける。英文を文頭から順送りにブロック毎に意味をとらえてみる。とらえられた和文を眺めると、例えば述語動詞が最後尾に来ていない。つまり典型的な和文構成には反している。しかし、これは形の整った和文への橋渡しをするいわば中間言語であって十分に意味の分かる和文である。「順送り式リ・ディング」は、英文中に意味の塊(=センス・グループ)毎に斜線(=スラッシュ)を入れてゆきながら、このブロック毎に文頭から順送り式に意味をとらえていく方法である。同時通訳の世界では会計用語を用いて FIFO(first-in, first-out)-先入れ先出し-と呼ぶ。こういう英文の意味のとらえ方は英語教育の世界では、直読法 直読直解法 速読速解 RIC 方式(Rapid Interpretation Course Based on Sense Grouping of English Sentence)など色々な名称で呼称されてきている。

こういう方法についての発表を手作り教材を通じて、4年前の大学英語教育学会第31回全国大会(1992年9月早稲田大学)においてさせていただいた。鳥飼玖美子氏がこれに眼をとめられた。『実用英語の世界』(南雲堂,1993)中の「同時通訳方式による英文購読」という氏の小論文で次のような主旨の説明をしておられる:「一般の英語教育の講読においても同時通訳の世界で使われる sight translation の方法が有効で、最近英語教育においても直読法、直読直解などと呼び研究も進んできている」そしてこの主旨説明の下に上記の「1992年9月早稲田大学の発表」を注記されたのが3年前の1993年のことであった。

英文のセンス・グループ毎にスラッシュをいれながらこのブロック毎に文の頭から左から右へと順に意味をとらえてゆく場合に、日本語の口語のリズムをとりいれてみると意味のおさえかたが楽になる。後戻りや返り読みをしなくとも、英文の意味をとらえてゆくことができる。つまり、「私は思いました(よ)/そんなことはつまらないことです(ね)」というように意味をとらえることができる。こうすれば、英米人の発想の順番にしたがって、私どもも英米人の内面の意識の流れのままに英文の発想を共感(share)できるようになる。英文を頭からとらえられるようになれば長文にも対応できる。「このちょっとした文句は、作者がふと思いついて挿入したのだな」という事が分かるようになる。英文の流れのままにとらえられるようになってゆけると、英米人の思考の流れ・発想法に迫ってゆけるようになるからである。その為には、例えば、名詞の直後に修飾語・句・節などがどんどんつけたされる英文と、こういうものを事前に用意しながら述語動詞で最後をしめくくるという和文の構造の違いを納得し認識する必要がある。さらに大切なことは、意味がとらえられた英文構造そのものを内在化することである。この「内在化」は実は苦しい過程である。従来これが実践されてきていない。例えば「國弘正雄先生提唱の只管朗読」を通じての「4-5題/週」(計100語程度)の文章の

9月23日(月) 研究発表第2室(1200)

暗記暗唱とその小テスト実施という過程が大切である。これが「書ける・話せる英語」へ結びつく道である。

3. 効果

鳥飼氏は「従来の Grammar-Translation Method(訳読法)は文学を精読するには適しているかもしれないが、話す力には結びつかず…」とされている。英文の返り読みは細部に気をとらわさせすぎて全体の主旨を取損なわさせる恐れがある。順送り式に直解する習慣をがつくと短時間で多くの英文が読めるようになり、要旨も把握しやすくなる。返り読みに慣れた人が英語を聴く場合は初歩のきまり文句は聞き取れるが、長文にはついてゆけない。だから、そもそも例えばいわゆる英会話が成立しないことになる。順送り式による意味のとらえかたは、英文と和文の発想構造の違いを意識させてくれるので、中間言語を通じて思考してゆくと英語も書けるようになり、ゆっくりだけれども英語は話せるのだという発見もできる。以上のような点に思い至ると、頭から英文をとらえられる力をつけてゆくことは、聞く力の向上にも効果があるのだ、さらには話す・書く力の向上にもつながるのだ、ということも了解できてくる。つまり、英語は「読む英語・書く英語」と「いわゆる英会話」という「異質の二本の道」ではなくて実は「一本の道」なのだ、ということが了解できてくる。

頭から英文をとられるようになってゆくということは、日・英語間の考え方の違いや共通性に気がつくプロセスでもある。日本語をみつめなおし、日本語の美しさを認識し、日本人としてのアイデンティティを改めて認識することにもつながる。言葉に対する感覚・感性が鋭くなるということでもある。同じ英文や和文内容を10人の学生がいれば10通りに表現したり要約したりできるようになってゆくのである。これは、学習者の language ability(言語能力)を十分に創造的に発揮させてゆくという教育の本質につながる作業である。「考える」楽しさや「発見」の楽しさを会得できる作業である。多くの英語資格試験においては数値で示す「言語力」を追うあまり、いわゆる客観方式試験が主流となり短時間に記号 ABCD のいずれかを選ぶという一種の「ゲーム感覚」のテストが行われている。これは language proficiency(技能)を測る試験である。このテストのあるレベルに達すれば授業には出なくてよいとする学校も出現し、技能万能を助長している。もちろん技能は必要であるが教育においては教師は教えてこそ教師である。教師は授業を放棄してはならない。学生には授業を通じて、技能よりももっと大切な「考えたり、新しい発見をする喜び」を認識させることが必要である。「外国語を知らない人は自分の言葉も本当に知らない」というゲ-テの言葉を身をもって認識させ英語という言葉を通じて言語と社会の構造の関係を認識させることにより language ability(言語能力)を育てなければならない。

4. 結論

「世界は一つ」との実感を持つ事ができる時代に入ってきた。世界の人々と「共感」を共にしてゆくためには、若い人が言語としての英文構造をあるがままに頭からとらえるプロセスを通じて「考え発見の喜びを味わいながら」言語能力の向上してゆく事が大切である。

(発表では「頭からとらえる英文構造」の実例紹介をさせていただきたい、と考えています)

to-不定詞 の例

例1:

"Peter, go to the post office to buy me ten ¥80 postage stamps."

(亀井忠一(1994)『頭からの翻訳法』(信山社)、p2)

(1) 伝統的な意味のとらえ方(漢文式が主流---逆行、逆流してもよい):

「ピーター、私に80円切手10枚を買うために郵便局に行きなさい」

(2) 左から右に順送りに英文の意味をとらえてゆく場合の意識の流れを和文で表現してみる:

"Peter, go to the post office /

「ピーター、郵便局に行って」

to buy me ten ¥80 postage stamps."

「私に80円切手10枚を買ってきて下さい」

(3) この英文を自然な日本語表現にしてみる:

「ピーター、郵便局に行って/80円切手10枚を買ってきてちょうだい」

例2:

Hyakutaka's comet reached its closest point to the Earth on March 25 to
enthrall stargazers with its brightness which experts say is unprecedented in
the past 440 years. (April 6, 1996 Mainichi Weekly)

Hyakutaka's comet reached its closest point to the Earth on March 25/

「百型彗星は5月25日地球に最接近し」

to enthrall stargazers with its brightness/

「星空を見上げる人々をその輝度でとりこにした」

which experts say is unprecedented in the past 440 years.

「これは専門家の話では440年ぶりとのことである」

例3:

U.S. President Bill Clinton traveled south to a regional economic conference to
convince business leaders his economic strategy is working.//

(柘原誠子(1995)『英語速読・速聴トレーナー』(朝日出版社)、p58)

U.S. President Bill Clinton traveled south/

「アメリカのビル・クリントン大統領は南部を訪れ」

9月23日(月) 研究発表第2室(1200)

to a regional economic conference/

「地域経済会議に出席し」

to convince business leaders/

「財界のリーダー達を納得させ」

his economic strategy is working.//

「自らの経済戦略がうまくいっているということを分かってもらおうとした」

英訳への応用:

時間をかけて

あせるな

いそぐな

ぐらぐらするな

馬鹿にされようと

笑われようと

自分の道を

まっすぐにゆこう

時間をかけて

みがいてゆこう

(坂村真民)

Take time

Don't make undue haste [Keep cool];

Don't be in a hurry;

And don't waver.

Even if you are made a fool of

or laughed at,

you should go straight

on your own way;

and you should take time

to cultivate your character and wisdom.

(英訳: 坂井孝彦)